

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 山本 芳弘	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 再生可能エネルギーが電力系統にもたらす負の効果に対する課金制度の研究</p> <p>再生可能エネルギーからの発電（太陽光発電や風力発電など）は分散型の電源であるから、電力系統に接続されると電力需給状況によっては逆潮流が生じる。逆潮流とは、通常は大規模発電所（上流）から需要家（下流）へと流れる電気が、分散型電源のある需要家側から上流方向に向かって流れることをいう。これは、電力系統の安全性・安定性を維持する観点からは望ましくない。そこで、逆潮流を生じさせるような電力供給に対しては、電力買い取りとは逆に何らかの負担金を徴収することで、系統への供給を抑制させる（自家消費を促す）ことができる。</p> <p>このような課金制度の検討においては、ある分散型電源が系統に及ぼす負の効果が、その電源の配電線網上の位置に依存するとともに、その影響は配電線網上に広がる点を考慮しなければならない。この研究では、経済的成果の分配方法と線形計画法を組み合わせた新たな課金方法を提案した。この成果を国際会議（5th International Conference on Sustainable Energy and Environment, 19-21 November 2014, Bangkok, Thailand）で報告した。</p> <p>(2) 従来からの研究のまとめ</p> <p>2012 年度及び 2013 年度の研究成果をまとめた。2013 年度成果である、住宅用太陽光発電に対するオピニオン・リーダーシップと支払意思額との関係を明らかにした研究を完成させ投稿した。また、2012 年度成果である、太陽光発電設置に対する補助金と電力買い取り価格の最適な組み合わせを明らかにした研究を継続してとりまとめ中である。</p> <p>2 その他の事項</p> <p>(1) 本学地域政策研究センター「環境政策の新展開」プロジェクトへの参加</p> <p>同プロジェクトの成果をまとめた『環境政策の新展開』（勁草書房、2015 年 3 月）の第 5 章「再生可能エネルギー普及のための政策」（85-100 頁）を執筆した。内容は、普及策の基礎理論の解説と最近の研究成果の要約である。</p> <p>(2) 第 31 回本学公開講座「デフレーションを考える」での講演</p> <p>本学産業研究所「デフレーション現象への多角的接近」プロジェクト（2012-2013 年度）の成果を公表するため、上記連続講演会のひとつとして「デフレとエネルギー問題」を講演した。内容は、デフレとエネルギー需給の関係ならびに今後の見通しである。</p> <p>(3) ラジオ高崎「高崎経済大学ラジオゼミナール」での講演</p> <p>上記シリーズのひとつとして、「環境問題と経済学」と題して、環境経済学の入門と再生可能エネルギー普及制度に関する解説をした。</p> <p>(4) 高校生向け模擬授業</p> <p>3 つの高校において、経済学とはどのような学問かについて模擬授業を行った。</p> <p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 再生可能エネルギー導入の新たな試みに関する研究</p> <p>コミュニティ規模で再生可能エネルギーを導入する方策について、前年度からの研究を継続して行い成果を発表する。</p> <p>(2) これまでの研究成果のまとめ</p> <p>科学研究費補助金課題「再生可能エネルギーと省エネルギーのための制度設計」が最終年度となるため、現在進行中の課題を完了させるとともに、期間を通じて得られた研究成果の総まとめを行う。</p>	